

小金井市立保育園の今後の運営に係る市民説明会 議事録（質疑応答）

日時：令和3年10月27日（水）午後6時00分～午後9時00分

会場：本町小学校 体育館

対象：市民

参加者数：21人

【質疑応答】

○三浦保育課長 それでは、次第の4、これより質疑のほうに進んでまいります。ご発言をされる方は、挙手をいただきまして、マイクをお持ちいたしますので、着座のままご発言いただければと存じます。

いかがでしょうか。

ではお願いします。

○参加者 ●●●と申します。

全般に大変心配をしております。民間に任せれば何とかなるという雰囲気が前面に出ているんですが、民間の株式会社保育園の財務状況はどの程度把握されているのでしょうか。市で定員オーバー、定員があふれているから潰すという話になると、どんどん子どもがもしも減って、民間が会社として運営できなくなったら、民間はまず利益を出すために職員を減らします。市は、大変だから民間に行くと。民間に行けば場合により何とかしてくれるんじゃないかという雰囲気になって、民間がこれ潰れたら、その園の児童たち、どうするんですか。

ある保育園は20か所も市内に。私が知る、テナント保育園があつて、天気の日は一生涯懸命、保育士さんが子どもをあひるの学校のように連れて近くの公園に遊ばせに行く。雨が降ったら、ずっと園内に閉じ込めになるという状況になって、ちょっと晴れたから、晴れ間に園庭に出て遊ぶということができないということを目の当たりにして、私はもう、この緑の小金井に住んで愕然としているんですよね。もう20か所運営している株式会社が、もしも人が減って、または何かの事情で経営が立ち行かなくなったら、どうするんでしょうかね。少なくとも経営状態は把握なさっているのでしょうか。全ての民間園の。そこだけは押さえてほしい。

それと、全く保育の質の中に、園庭を持っているか持っていないか。テナント保育園

と園庭を持っている保育園の質の差というのは、定性的にしか評価しにくいでしょうけれども、その辺をまず市長がどう考えていらっしゃるのか、その2点。特に気になった2点なんですけど。つらつら言い始めると切りがないんですけども。

お金がないから建屋を建てないという方向は、幾らでも方法はあります。今、PFIでやることとか建てた物を民間に貸して民間に運営してもらう。民間の人たちは、テナント保育園は、民間の不動産を持っている方に家賃を払っているわけですよね。それを貸してあげれば、今、少なくとも小金井市が持っている市立の保育園は家賃要らないわけです、固定資産税ぐらいで。その分だけ民間が、ほかの民間の株式会社の不動産屋さんに払っている家賃は浮くんです、トータルで考えれば。その辺をビジョンを持って考えていらっしゃるのか、大変心配です。

私は、特に孫が今までに住んでいるわけじゃないんで利害はないんですけども、小金井市に生まれ育って、緑の小金井で、園に、園庭でぱっと飛び出して晴れ間に遊びに行く。泥んこになって園舎に戻れる。この環境に勝る質が、テナント保育園にあるのかどうか。その辺、考えをお伺いしたい。とにかく潰れたらどうするのか。そこをどう考えているのか。まずそれに対していかがでしょうか。

○三浦保育課長　じゃあ、お願いします。

○西岡市長　ご質問、ご意見をいただきまして、ありがとうございました。

まず、私のご挨拶でも申し上げさせていただきましたように、小金井は、公立保育園も民間保育園もお互い……。

○参加者　すみません。もうちょっと大きい声で。

○西岡市長　これぐらいの音でよろしいでしょうか。すみません。

小金井市の場合は公立保育園も民間保育園もお互いに協力をしながら、長い間、保育事業を進めてまいりました。民間保育園ではもう70年の歴史を持つ、大変歴史のある保育園も多数ございます。公立も民間も同じく認可保育園でありますし、民間には先ほども申し上げましたように、現時点では財政確保の意味での優位性や人材の確保という意味での優位性があるのも私は認識しています。

そして公立保育園がおかれている現状は、今、人材の確保、費用の負担、施設の老朽化、それから今後、緩やかに年少人口、令和8年頃をピークに緩やかに減少していくという見通しもあり、また、この間、待機児童解消ということで最重要事項として、かなりの保育定員数の増加を図ってまいりました。平成27年に約1,700名であった保

育定員数は、今年の4月には3,700名近く、そして、来年の4月には4,000名弱の保育定員数となるところでありまして、民間の皆様方のお力をお借りしながら、私は今回、市長に就任して6年になりますが、小金井の保育を公立も含め民間の方々にも同じように担ってきていただいていると認識しております。

ご指摘の民間保育園の存続性ですね。また、民間企業というところに着目をされた、いわゆる撤退のリスクのことをご指摘いただいております。確かに全国でそういった例があるということは承知をしております。今のところ小金井市では、そういうことは発生してございません。

児童福祉審議会を含めた東京都において、認可保育園につきましては様々な審査が入ります。また、途中、東京都の監査や第三者評価などなど、その保育園の財務体質も含めた監査も入ると思っておりますので、私としましては、当然、この後存続をするという大前提で、何年かしたら撤退するという思いで小金井市に保育園を開設した方はいらっしやらないとは思っています。小金井市で保育園を開設していただいた以上、その保育園がしっかり存続し定着するために、今もお頑張っていると思っております。

そして、公立にあっても民間にあっても、そこで保育をしている方々は人間、同じ人でありますので、その中で一生懸命に私は頑張っていると思っておりますが、これから保育の質を上げていくという大きな課題がありますので、こちらについて特に小金井市としては、その役割を担ってまいりたいと考えているところでございます。

園庭についてです。

園庭があるほうがいい。それは私もそういう思いを持つ方が多いことは十分承知しております。しかし、小金井市の場合、駅前の保育、通勤、その働き方、生活の仕方、ライフスタイル、いろいろな観点から駅前の保育を選ばれる方が非常に多いという現状があるのも事実ですが、しかし、小金井市には、今、相当な数の認可保育園がございますが、認可、認証、小規模、いろいろな形態の保育園がありますが、選択をされるのは、そのご家庭でありますので、様々な選択肢がある。そして、より多くの選択肢があるというのは望ましいと思っております。

もちろん園庭があるということは、その保育園の一つの魅力にもなっていると思えますし、公立保育園についても園庭があるからということで選ばれる方がいらっしゃることも十分理解しています。しかし、先ほども申し上げましたように、市民の方々には多

様な選択肢があるということをごさいますて、駅前で広い園庭のある保育園を開設することは現状、大変困難な状況の中、そういった部分では、その保育園の方々もいろいろな方策で子どもたちがすくすくと育つ環境を保つために、いろいろな創意工夫をいただけていると思っておりますし、もちろん小金井市としてもそういった方々に対する協力は、当然していかなければいけないと考えておるところでございます。

○参加者 すみません。議事進行なんですけど、今のご質問に対する答えになっていないと思うんです。質問はあくまでも民間保育園の財政状況を把握しているか把握していないかという質問であって、それに対してきちんと回答していただくというのが筋じゃないかと思うんですが、すみません。司会の方、ちゃんときちんと整理していただければと思います。

○三浦保育課長 一応、市長の答弁の中では、児福審等々を通っているのではという答弁もあったところなんですけど、もう一度お答えしていただけますか。

○平岡保育政策担当課長 すみません。幾つか質問があったかなというふうに思っています。

おっしゃるとおり財務状況を把握しているかどうかというところのお答えはちょっと少なかったのかなと感じておりますが、まず、財務状況の把握ですけれども、おっしゃっているところが、どこまで詳細なところについてはあるんですが、公表されている範囲については、私どもとしても把握しているというところがまず一つございます。

それから、今後の経営状況というところでの把握ということで、一番細かい内容ということになりますと、園を新しく開設するときに、東京都の中でも財務状況のチェックが入るというのがまず一つございます。ですので、そういった部分での財務状況などの把握というのは、市のほうでも行わせていただいているというところはございますが、おっしゃるとおり経営上どうかというところの詳細までの把握というお話になりますと、そこまで詳細な財務帳票を取り寄せているというような状況ではございません。

○参加者 例えば、1人当たりの職員の平均給与、つかんでいらっしゃるんですか。民間と市立と。それから、1人当たりの職員が見ている園児の数、把握されていますか。当然、その程度の数字は押さえて、この議論はしているんですよね。

○平岡保育政策担当課長 まず、職員給与についてですけれども、給与規程等ございますので、こちらのほうで把握できる範囲内では把握はさせていただいておりますけれども、給料明細などまでちょっと取り寄せてというところまでは把握は難しいところはございます。

○参加者 ぜひ、把握されているものなら今度公開していただきたいです。これを見ても、定性

的なものがつらつら書いてあるだけで、定量的な話は、自分の都合のいい数字しか出ていない。市がやったら金がかかる、それしか書いていない。民間に任したらブラックボックス。あと都が調べているから大丈夫でしょう。それしか書いていません。

そこはちゃんと民間と市立でやった場合の比較をして定量的に、あと将来の存続性がどうなっているのか。今は監査している。でも10年先、大丈夫かというのは、市立でやっていけば、大きな審議をしなければ絶対、潰さないわけですよ。だけど私立はごめんなさい。例えば、私の祖母がやっていた幼稚園は潰しました、自分の都合で。もうやっていたら園庭を潰したんです。園庭というか、園をもう廃園にしました。20年前ですよ。そういうことが起こるんですよ、民間では。

これ20か所持っている、ある保育園が。例えば社長さんが急死しました。やめます。やる人いませんと、起こりますよ。やりますよ。株式会社だったら。株式売っちゃえばいいんだから。

今度、全部数字は出してください。1人当たりの平均給与。給与明細見せろなんて言っていないです。私はいろいろ聞くと、私立の保育園、プライベートの保育園の職員の方は、非常に薄給で厳しい思いをしているという話を結構聞くんです。ただ、それは定性的に聞いているだけだから、定量的に比べられない。公立のほうが身分がはっきりしていて、急に首にはならないと、心配ないと。あと、例えば職員の定着率とかね。定量的な把握をぜひして、それを開示して、問題ないと、安心だと、お子様方をお預けするに。そういう定量的な数字の裏づけを、ぜひ調べた上で出していただきたい。

○平岡保育政策担当課長 幾つか、数字として不足している資料が多いという、すみません。ざっくりとした返して恐縮なんですけれども、ご指摘があったかなと思っております。今ちょっとにわかにならなくて、こうこう、こういう形でというのはお答えできないんですけれども、そういうご意見は、こういった会であったというところはございますので、私どものほうも統計資料として、どんなものが追加できるかなどについては、ちょっと考えさせていただきますと思います。

○参加者 ぜひ、お願いします。

○三浦保育課長 では、次の方、いかがでしょうか。ごめんなさい。マイクが入らないです。

○参加者 お話ありがとうございました。小金井市民で、公立保育園をこれから志望したいと思っている者です。

お伺いしたいのは、国や都からの補助が、公立保育園に国や都からの補助がないとい

うことで閉園を考えていらっしゃるということなんですけれども、その場合、今回対象となっていない小金井保育園やけやき保育園2園も、今後、縮小していくという考えはないのでしょうか。

また、保育の質を向上させるというふうな話でもあったんですけども、市の保育園が2園のみになった場合は、保育のこの質の向上をさせるどうこういう考えは薄れていくのか、存在しない方向になっていくんじゃないかなと普通に思うと、考えられたんですけども、今後、予算を縮小したりというようなことはないのでしょうか。その2点をお伺いしたいと思います。

○西岡市長      それではお答えさせていただきます。ご質問いただきましてありがとうございます。これから保育園の入所を考えていただいているということでした。

まず大きく3点のご質問をいただいておりますが、順次お答えしてまいります。

冒頭、私からも、また担当からも説明しましたが、小金井保育園とけやき保育園はこれからも存続をさせていく。くりのみ保育園とさくら保育園については令和10年の3月31日まで開園をし、令和10年4月1日から廃園。そして、その後において、わかたけ保育園においても段階的に定員の募集を停止しながら、同じように卒園するまでその園児をお預かりして廃園をする。ただし、時期についてはこの2園の状況による。それから、小金井とけやき保育園は存続するということが方針案としては定めてございます。

保育の質のところでございますが、非常に重要なところでありまして、お手元の資料の12ページのところに、保育の拡充概要（案）ということで、重要な点6点について挙げさせていただいてございますが、既に行っているものもありますけれども、この内容をぜひとも拡充をさせていただきたいと思っております。

小金井市役所の子ども家庭部保育課と、公立保育園としっかり緊密に連携をしながら保育の質を高めていくための取組を行ってまいりたいと思っておりますが、そのためには、どうしても人材を確保していく必要がございますので、この段階的縮小によって生み出された様々な経験を持った保育士の方々に、今度は市役所の中で巡回チームやこの質のガイドラインの普及、活用、促進に向けて、今まで正直申し上げて、この辺の分野の市役所としての役割が十分果たされていませんでした。なので、今年の3月に初めて策定をさせていただいた小金井市の初めての保育の計画、すこやか保育ビジョンや保育の質のガイドラインというこの方針を、より市内に普及、共有、実践していけるように、

一生懸命取り組ませていただきたいというふうを考えているところであります。

それから、保育の予算についてであります。小金井市のほうは保育の予算につきましては、今後の待機児解消に向けて保育園はかなり開設をしまいいりました。先ほど申し上げましたように、平成27年、約1,700名だった保育の総定員数は、来年の4月には4,000名弱になります。特に民間保育園が相当な数増えました。

保育の予算を決算で見ますと、平成27年、これは私が市長に就任したときは一般会計が386億円のところ保育の運営費は31億円でした。令和元年ですけれども、令和元年の決算では63億円なので、約2倍近くになってまいりました。

また、児童福祉費につきましても、平成27年市民1人当たり、たしか5万5,000円ぐらいであった、これは児童福祉費の中には保育園の経費も入るんですが、こちらが令和2年の決算では約10万円を超えてまいりまして、そちらもやはり倍近くになっておりまして、こちら多摩地域で待機児童率も、1人当たりの児童福祉費も多摩地域で平成26年、27年、それぞれワースト1、一番低い状況でした。待機児童数はまだまだ改善しておりません。今現在もその渦中にありますが、来年4月に1歳児を含めて待機児が解消できるように努力をしているところであります。

児童福祉費につきましても、三多摩地域ではワースト1だったんですけど、一応、令和2年度には1位になりましたが、予算をたくさんかけているから小金井市の環境がいいとは私も思っていませんし、決して胸を張れる状況ではないと思います。満足度を見ても、子ども・子育て政策に関するアンケートを見ても、今、満足しているという方は3割台というまだまだ低い数字なので、もっともっと小金井市は、子ども・子育て、今日も大熊教育長にも来ていただいておりますが、切れ目のない支援、今まで手が届かなかったところにしっかりと取り組めるような、そういう取組を進めていきたいと思っています。

そのためにも、今回のこの総合的な見直し案を市民の皆様方にぜひご理解いただきたいということで本日の席に望ませていただいております。

○参加者           ありがとうございます。2園を存続するということでしたけれども、例えば小金井保育園は、あと10年後には築50年は超えると思うんですけども、改修して残していく、現状ではそういうお考えなんですか。

○平岡保育政策担当課長   すみません。小金井保育園、あと10年ぐらいすると、というご質問は、保護者の方の説明会の中でもいただいております。

結論から申し上げますと、存続させるという考え方は持っているんですが、手法については、実は集会施設と建物が一緒になっている複合施設なものですので、そちらの担当とどういう工事をしていくかなどについては、これから具体的に相談をしていかなければいけないというふうに思っていますので、大規模な改修をするというのも一つですし、工事のやり方によって建物自体の寿命を延ばす方法もあるかもしれませんが、今後の検討ということになっております。

○参加者           ご丁寧なご説明ありがとうございます。

○三浦保育課長   次の方はいかがでしょうか。マイクがないのでごめんなさい。地声でいきます。

次、何かご発言のある方、いかがでしょうか。

女性の方。

○参加者           今の説明を聞かせていただいて、私のちょっと考えていることを質問させていただきたいと思います。

私は、実際40年間公立保育園で働いてきた者として、この保育の質というところをいかにやっぱり今後、守っていくのかという基盤になるのは、公立保育園ではないかと思えます。民間保育園のいろんなものを利用したりとか借りるということは、大変結構ではありますけれども、その基盤をつくってきた公立保育園がなくなってしまったら、いつの間にか規律については、そういう基準が取っ払われていくんじゃないかという危惧をしています。

というのは、やっぱり公立保育園というのは、身分的にも、財政的にも確保された中での子どもの保育であり、それから、職員の安定的な確保であったというふうに思っています。それに、今までの保育園が老朽化してきたということをおっしゃっていますけれども、私も最後に勤めた園は大変古い保育園でしたけれども、内部を取り替えて、そこに公立保育園として新しい、いろんなものを付加価値をつけながら、そこで公立保育園を残してきたという理由があります。

だから、さくら保育園にしても、ほかの園にも、庭があるこんなすてきな保育園を古くなったからという、安全・安心という面というふうにおっしゃいますけれども、そこをどうしてなくしてしまって、民間だけの活力を生かそうとしているのか、非常に憤りを感じています。

本当に駅前保育園ができたということでお母さんたちにとって、お父さんにとっては便利かもしれませんが、子どもたちが、果たしてそこで保育の質を確保した保

育をされているかどうか、これは非常に疑問に感じます。今日もちょっと駅前で保育士さんがワゴンに5人の子どもを乗せて横断歩道を渡っていましたが、私が公立保育園のときには、必ずそういうときにはワゴンを押す人と、それから安全を確保する職員がいたんですね。ところがそれがなくて、今回見ている限りでは、それぞれ5人ずつを乗せて、あの自動車の多いところを行き来していて、もしこれで事故でも起きたらどうということになるんだろうという、そこがやっぱり民間での補えないところかなというふうに思っています。

園庭がないといって、人員を本当に確保するというのは大変なことではあるとは思いますが、公立保育園だったら障害児に対しても人をつけたりとか、それから、いろんな子どもたちが入ってくるときの補助を担う人を雇うということは簡単だと思いますけれども、民間の場合には、やはり給料がなかなかそこからさばいて余分というか、ちょっと潤う職員を雇うということはできないような状態になっているんじゃないでしょうか。

だから、本当に保育の質を考えるというのであれば、公立保育園は残すということが私は第一に考えていただきたいというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○西岡市長 公立保育園でご勤務をいただきまして、ありがとうございます。

小金井の公立保育園で多くの園児や、また、保育士の皆様方が長い歴史の中で地域と一緒に育んできた歴史というものがあるということは、十分承知しております。なので、公立保育園2園は存続をさせていただきながら、そして、公立と民間との役割、そのバランスを取りながら、それぞれが認可保育園としての使命を果たしていきたいと思っております。

民間保育園の皆様方も、一方で長い歴史を歩んでいただいております、私といたしましては、同じ保育園の中で働く保育士さん、これは一人の人間として子どもたちに向き合っていていただいております。ご指摘のように安心・安全、質の向上、これは大事にして、その視点としては、子どもの最善の利益のために使命を果たしていくということは、十分踏まえながら、どんな状況であっても小金井の子育て環境、子育て環境の充実に引き続き努めてまいりたいと考えております。

○三浦保育課長 ご質問された方、一旦、よろしいですか。もう一回ご質問されますか。1回、次の方にいっちゃってよろしいですか。ありがとうございます。

では、次の方いかがでしょうか。

2列目の方、すみません。

○参加者

すみません。先ほどは失礼いたしました。●●●と申しますけれども。

すみません。ちょっと幾つかご質問させていただきたいと思うんですが、その前に僕自身、市長におかれましてはご存じか、もう覚えていらっしゃらないかもしれないんですけども、公立保育園の運営協議会の初代委員長などをしていきまして、五園連代表などをしたときに市長に来ていただいて、ちょっと立場の違い、民営化の話とかあったんですけども、そういったことを乗り越えて連携していこうと、密にコミュニケーション取っていこうという話を当時していましたので、今日、こういう形での説明会というのは、ちょっと個人的には残念に思っております。

そこで今日、できるだけ議論がかみ合うような形で、またちょっと今までと違って個人の立場で発言させていただければと思いますけれども、質問の柱としては大きく三つあります。

一つが、これ20年前からという話が今日ありましたけれども、我々というか、運協とか、これまで議論してきたことと大きく変わらないんですが、一つは、保育園の廃園ですとか、総合的な見直しです。これがなぜ必要なのかというところですね。

二つ目は、廃園して小金井の子ども・子育て施策というのがよくなるのかどうか。

三つ目は手続の面です。一応、大きくちょっと三つ、それぞれちょっと話をしたいんですけど。

まずこの理由に関してなんですけど、これ、いろいろとお話に出ていると思うんですけど、ただ一方で、結局、とどのつまりというのは何なのかというところ。例えば、いろいろと、これまでの経過ですとか、取り巻く環境とか、大規模な改修だとか、あるいは保育ニーズが多様化しているとか、こういったものというのは正直、別に公立保育園の廃園と関係ないんじゃないかと思うんですね。環境がこうだとかどうだとかいう話なんですけど、とどのつまり保育園が、公立保育園をじゃあ廃止にしなきゃいけないという理由というのは、絶対に何なのかと。そこをもうちょっと明確にさせていただきたくて。

その理由というのが、単にサービスを拡充するのにお金が必要だとか、人材を確保するのにお金が必要とか、あるいは建物のためにお金が必要だとか、ちょっとこの保育園の中身の話というか、保育の質とか、保育の、その2番目の質問をしたい。中身の話というのは、どちらかというと最初にお金の話をするのは失礼な話じゃないかと思うので、ちょっとここはお金の話なのか、それとも保育の中身のことで廃園のことを考えて、あ

るいは見直しを考えているのか、そこを明確にちょっとしていただきたいのがもう一つあります。ちょっとそれによって、また追加の質問というのをしたいなと思っています。取りあえず、それについてお願いします。

○三浦保育課長 ごめんなさい。1問ずつでよろしいですか。

○参加者 はい。そうです。

○西岡市長 それでは、担当共々連携しながらお答えをしまいたいと考えております。

大きくは廃園に至る理由、今回はその1問目ということですね。2点目が子どもたちにとってよい環境になるのか。3点目が手続ということです。

「とどのつまり、お金の話なのか」とのことではありますが、お手元にお配りしてございました資料にもありますように、保育園が今置かれている小金井の公立保育園や、また、小金井の保育の今ある現状や、公立保育園が抱えている様々な課題を考えた結果、段階的縮小から廃園。それから、これまで大変、小金井市の公立保育園の歴史の中では大変重責ある立場を担っていただいております。ありがとうございます。

これまで平成9年、行革大綱というものに保育園業務の見直しという項目が挙げられ、児福審や保育検討協議会や、運協の立ち上げや保育計画策定委員会など、長い間、議論を積み重ねてまいりまして、現状、今おかれている社会情勢等を考えると、公立保育園が置かれている費用の面もあります。人材の確保が非常に困難な状況が年々厳しくなっているという状況があります。施設の老朽化も深刻という現状があります。そして、待機児の解消のために、民間保育園の皆様方のお力を貸していただいて、相当な数の民間保育園が誕生し、そして、今後、人口は年少減少、緩やかに減少していくという状況もあります。そういった意味で、まさに総合的に判断をいたしまして、今般、段階的な縮小から、令和10年4月1日、2園廃園という形の方針案をまとめさせていただいたものでございます。

端的に申し上げます、もちろん財政面というものは当然あります。非常に今、児童福祉費が右肩上がり、民生費も右肩上がり、そして、これからこの厳しい財政状況、限られた財源をどのように活用して、よりよい環境をつくっていくかという視点に市長として立てば、私は、今般の方針案というものを決断するに至ったということになります。

以上です。

○参加者 すみません。ちょっと今の段階でいいですか。ちょっともう一回整理したいんですけど、かみ合っていないみたいで。総合的にというのは、これは一言でいえばそうだとは思

うんですが、総合的の中身なんですけれども、それが人材の確保と建て替えの話と待機児童の解消、この三つでよろしいですか。

○西岡市長      それから、費用の負担、財政状況、公立保育園の運営において置かれている民間との違いなどについても申し上げさせていただきましたけども、財政の状況ということも理由としては申し上げさせていただきました。

○参加者      ありがとうございます。

ちょっとそこまでで一つ確認なんですけれども、まず人材の確保に関しては、これ公立保育園の人材確保が過去難しいということが実際あったのかどうか。具体的に、僕が知る限りなんですけれども、人材については皆さん、どの方に聞いてもやっぱり公立保育園に就職したい。正規職員としてじゃなくて、非正規とかというのはまた別ですけども、ちゃんときちんと正規職員であれば、間違いなくこちらのほうに就職したいということで、むしろ民間だとなかなか将来のことを考えてしまうとどうかというような話があるんじゃないかということがまず一つ。

二つ目の待機児童の解消に関しては、こちらのほうが、これだからといって公立保育園を潰すのかと。民間と公立があった中で、どこをどういうふうに対応するのか。ないしは、待機児童の解消といったときに、単に量だけの問題だけじゃなくて、その量だけの問題で、しかも公立保育園を潰してとなるのか。なぜ公立なのかというのが一つ。

あと、この建て替えのことですね。建て替えのことに関しても、こちら、この中でも建て替えに関しては、財政的にちょっと厳しいとかという話があるんですが、ただ、もうやらなければいけない。これ全体的にそうですけども、建て替えの問題というのはもう以前から分かっていた話であって、それこそ、この中では4ページでしたっけ。公立保育園を建て替える方向性はなくという形で4ページの中に書いてあるんですけども、平成29年度の3月の策定ですか。

ただ一方で、これ僕もよく議論した記憶があるんであれなんですけど、この平成29年3月のこの公共施設総合管理計画の中では何て書いてあるかということ、安全・安心の確保に関して、「既存の老朽化した施設については、設備等の不具合によるサービス低下や事故の発生を防止するため、速やかに修繕するとともに、大規模修繕や建替えの検討と合わせ、各施設の将来の在り方に関する検討を行い、適切に対応します。」という形で、これ公立保育園、基本的な方針というところに書いてある内容でして、この段階で、きちんと検討するというふうに書いているんです。大規模改修や建て替えについて

です。それを、これ西岡市長が就かれたときだと思うんですけれども、なぜ今こういうふうに書いてあるのがいきなり廃園という形になるのか。建て替えに関してです。

さらには費用の話で、この民間と公立の違いという形で5ページのところだと思うんですが、こちら、たしか市の実質負担額という形では84万6,000円と153万5,000円という形で出ているところであります。ただ一方で、こちらのほう、これは市の負担額というところだけなんですけど、一方でこれ児童1人当たりの費用、この数字自体いろんな誤差が入ったりとか全体が引かれている中で、これをそのまま比較するのどうかというのは思っているんですけども、でもこの数字自体、過去はこれ、今は私立は221万6,000円で、公立が192万3,000円ですけども、これすら逆転をしていたんですね。公立のほうが高かった。それこそ先ほどの話じゃないですけども、1人当たりの職員のコストとか、いろんなものがある中でこうだったのが、今、逆転をしている状況です。

かつ、今、公立保育園の満足度とか質の高さというのは、一定の評価をされていると思いますので、そういう中でこういう金額が出ていて、これ市民の税金となっているのは、国も市も変わらない。1人当たりのコストというのは変わらないというか、どちらに払うかという点では、同じなんですよね。かつ、そのコストというのは国のほうからは補助金という形ではないんですけれども、市の交付税という形で三位一体改革のときに出たと思いますが、これは補助金がなくなったのではなくて、補助金が交付税に変わったただけであって、財源としてはなくなったということではないと思うんですよ。それが制度の立てつけですので、単純に補助金が出ていない、あるいは、市の負担額が少ないというのではなくて、市民にとってどういうサービスが必要なのか。かつ効率的なのかどうかといったときに、少ないコストで、いいサービスができているのであれば、それを潰すという話には、基本的にはならないと思うんです。

何を、ちょっと今この中の話、これが2点目以降の話になってくるんですけど、今の市長からの話の中で、財政の話なり、ここに結びつくような話というのが出ていますけど、要は運営的な話が出てくるんですけど、保育の中身が小金井の保育をどうしたいのか。小金井イコールどうだとか、そういった話は一切なかったんですね、今の理由の中に。やっぱり一つ、そういったところのがちょっと違うんじゃないか。

財政の観点でいうと、もっと言ってしまえば、この財務効果に関しても、過去の試算の仕方とかいろいろと手続の話とかあったりするんですけど、例えば、この27人、人

を削減するとなっています。これは本当に27人削減するんですか。どういう前提になっているのか。ないしは、建て替えのコストと入れているんですけど、過去は建て替えのコストというのは、これ補助金が出るかどうか分からない中で入れる、入れないというのだったら、これを入れるものではないと思いますし、ここの中ではランニングコストの話とか正規職員数が27人減る前提ですとか、あるいはこの金額の単価の話ですとか、この算出の根拠とか、そういったものが一切出されていないので、本当にこれだけの効果が出るのか、そういったものというのがちょっと、一個一個確認というか、実際にどうなのかというところは過去にもご議論したんですけど、そんな簡単に何十億という金額がですね。しかもこの・・・(聞き取れず)で比較して出てくるのかということが、ちょっと、きちんと把握してから出していただかないとどうかというところがあるんじゃないかと思います。

少なくともちょっとこれ、まだ1点目の財源というか、廃園の理由ですか。それに関して、今のこの部分だけでもこれだけ質問があるんですけども、お願いします。

○三浦保育課長 ごめんなさい。ちょっと整理しますね。人材確保の厳しい状況があったかというお話と、施設の老朽化についてはずっと前からというお話があって、大規模修繕については明確化してある中で何で廃園にしたのかというところですか。

○参加者 四つ言ったと思うんですね。

○三浦保育課長 四つですか。

○参加者 一つ一つ確認したいと思うんですけど、人材に関しては、公立保育園において人材確保がなぜできないという話になるのかという話ですね、正規職員に関してですね。

二つ目が、待機児童ですか。解決の問題は、いわゆる公立保育園の廃止に結びつくのかという話が二つ目。

三つ目が、運用とか正規とかという話なんですけど、これ補助金というか、補助が出ないからこういう形になっていますという話なんですけど、実際は1人当たりの費用ですとか、合理性がある中で、何で公立のほうが負担が大きいという話になるのかという話が3点目。

四つ目が、建て替えに関して、過去の資料に関して工事、大規模修繕なり、建て替えを行う、検討するというふうになっているのに対する今の違いというのは何なのかというのが4点目。

5点目が、そもそも中身の議論というのは、これは、これで今の理由だということだ

と中身に関して、保育の中身とか、小金井の保育にとってどうかというところに関しての話というのが、廃園との関係というのがよく分からない。

以上、5点です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 はい。

○西岡市長 ありがとうございます。

まず、現状におきましても公立保育園、日々運営しておりますので、5園のうちその人材の確保に努めております。この約6年間の間でも随分、社会状況が変わりまして、民間保育園のやはり待遇の処遇の改善がかなり大きく進んできたと思います。そういった背景もありまして、公立保育園で多様な形態でほぼ常時、職員募集をかけている状況でございます。正規の場合もあれば、あるいは任期付職員の方もいらっしゃる、多様な形態で募集をしておりますが、必要な人材をしっかりと確保し続ける。常に募集している状況がありますので、そこに今、一生懸命努力はしていますけれども、人材の確保をしていくということの大変な困難性を抱えながら日々努力をしているというのが率直な印象でございます。

幾つか詳細なところについては、これは職員課の皆様方と連携をしながらやらせていただいておりますので、十分な回答にはなっていないかもしれませんが、公立保育園の5園において人材を確保し続けるという困難性は十分理解しているし、痛感しているところでございます。ただ、そもそも、最後ちょっと質問の順番が変わりますが、小金井市の保育をどうしたいんだということが全く聞こえてこないというご質問でございますが、まさにそういったことに解消するためにも、市民や市議会の方々からのご意見もありまして、これまで全く存在しなかった初めての小金井市すこやか保育ビジョン、保育の質のガイドラインと今後の保育施設の方向性というものを令和3年3月に策定をさせていただきました。この中身を実践していくこと。そして、この中に掲げられた目標や施策をしっかり展開していくのが小金井市の保育だと思います。

一方、民間保育園の皆様方にはそれぞれに保育理念というものがありますから、もちろんその保育の理念に基づいて民間保育園が運営されていることは前提条件としてはありますけれども、小金井としては公立であっても民間にあってもこの保育ビジョンと質のガイドライン、多くの方々にお力添えをいただいて策定をさせていただきましたので、これがより浸透していけるように、保育の中に実践されていくように努めていくのが小

金井市の役割であり、これからの目標だと思っております。

これまで、のびゆくこどもプランなど策定してまいりましたが、主に量的な面での数値目標などの側面が高かったものの、小金井市のすこやか保育ビジョン、質のガイドラインはその名のとおりでありますので、この実践に努めていくのが本市の目指すものだというふうに理解しておるところでございますし、そうあるべきだと考えております。時間の関係で読み上げることはいたしませんでしたが、そのように考えております。

○平岡保育政策担当課長 ちょっと補足でいいですか。すみません。

まず職員の採用のお話をいただいたんですけども、小金井市でも正規職員の保育士さんの採用というのは若干名ですが、ここ毎年行っているんですけども、私たちのほうは結果的な数字しか聞いていないんですけども、おっしゃっているように、たくさん応募が来ているということは、ここ例年ないです。ですので、そういう今すごいありがたいお話を伺っているんですけども、ちょっとその、なぜ一致しないのかというところは、私どもとしては人事の担当ではないのでなかなかお答えが難しいんですけども、事実として、なかなか大勢の方が応募してきていただいているという状況がないという事実があるということだけはお伝えしたいと思います。

それから、待機児童が減ってきたから公立をとというふうに直結して考えているというのではなくて、おっしゃるとおり全体量として落ち着いてきたという状況が背景として一つあるということで書かせていただいているというほうが内容としてはどちらかという、こちらとしては、より正確かなというふうに思います。

それから、補助が出る出ないのお話で、かなり詳しいご説明をいただいたんですけども、確におっしゃるとおり一般財源化されたという言い方をよくされます。それによって直接このお金に充てるという形で、きちんとお金が出てこなくなったところが我々基礎自治体にとってはとても大きなことかなというふうに思っておりますので、民間保育園の運営費ですとか、開設費用については、きちんとこれに充てるということでお金が下りてきているということの制度の違いというのは、私たちの中ではかなり大きくて。そういった中で、おっしゃるとおり確かに国や都や市にお納めいただく税金は納めていただく方々にとっては同じ考えになると思うんですけども、運営する私たちからしてみますと、国や都からそのお金が返ってこない中で、市でいただいた税金だけで運営していくというような状況は、やはり厳しい状況があるというふうに思っておりますので、支払われる方々にとっては区別はないかもしれないんですが、市のほうにきち

んと、どれだけ国や都からお金が戻ってくるかというところは、私たちの運営の中にとつては大きいというふうに思っております。

それからおっしゃっている中身の議論のところについて、確かにここの中で、いわゆる保育の本質的な部分についての記載が少ないというご指摘はよく受けるところであります。私たちとしては、この中で書かせていただいている内容としてお答えにならないかもしれないんですが、これまでも言われてきている必要な保育のニーズに対してのサービスの拡充であるとか、過去から公立保育園自体として求められていたサービスの拡充であるとか、そういった部分については、少なからず触れさせていただいているというふうに思っております、なかなかこの時代、公務員自体を増やせていけない中で、今いる中でどれだけ拡充していくかというふうに考えた中でこちらの案ということになります。

私からは以上です。

○参加者

今のところでいいですか。僕が一つ聞きたかったのは、廃園の理由になっている考えのところなんですよね。廃園の理由として、今の話は、待機児童というのはあくまで環境の問題であって、廃園の理由ではない。今のお話も、公立と民間の補助金の話も、結局これはお金の問題だという話ですよ。あるいは人材に関しても、もちろん、これ確保できるかできないかという話というのは結構大事だと思うんですが、じゃあそれが廃園になるような話なのかどうか。人材を理由にして廃園になるようなところなのかというふうに、それだけじゃあ募集していて定員割れするとか、確保できませんという話ではないんじゃないかというふうに言っているんですね。

その観点でいったときに、じゃあ何が残るのか、廃園の理由として。まだこれが、廃園して何か跡地がもっともって保育に意欲のある、あるいは何か違う施策をしてもっとよくなるとかいうのであれば、まだずっと入ってくる場所があるんですけど、小金井の保育のためになるような、これが施策なのかどうかというところが、このまず廃園の理由のところでお聞きしたかったんですよ。

その観点でいったときに、今のお話を聞く中で一つ一つ聞いていくと、結局、最後はお金の話というか、財政の話というところに行き着くということだったら、そういう形で整理されるものなのかなとちょっと思ったんですけど。その理由に関して、しっかりとどういう理由なのかというところを、これが総合的だとか、ああだとかいう話だとやっぱりそこは平行線になってしまうので、いや、ちゃんときちんとこういう理由がある

んだと。こういう理由で、小金井の保育のためにこうなるんだというのがあるんだっただら出してほしいと、そういうことです。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。

今おっしゃっていただいたところについては、確かに平行線というようなお話にもなるのかもしれないんですが。

○参加者 平行線じゃなくて、イエスカノーかで、お金の話かどうかなので、できれば市長に答えていただきたいと思います。

○西岡市長 財政の話はもちろん重要です。市政全体のことも考えながら、そして、不足している、要望の高い、やりたくてもなかなかやらなかったこと。また、質のガイドラインに基づいて拡充しなければいけない、12ページにあるような内容をさらに充実していくためには、人材も一定の予算も当然必要になります。ですから、財政の話ももちろん重要です。

しかし、質問者の方がおっしゃるような、お金目当て、お金がないからかと言われたらそうではなくて、いろいろな背景があるということをおっしゃっていただきました。その理由は、お手元の資料の中にも書かせていただいているとおりであります。そういうことに鑑みて、私としては方針案というものをまとめさせていただいたというふうにお答えさせていただきます。一番のところは、やはり子どもの、結果としては安心・安全をしっかり守っていくと。その使命を果たしていくために段階的縮小の後に廃園ということをおっしゃっていただきました。

○参加者 ちょっとあの……。

○三浦保育課長 ちょっとほかの方、もしいらっしゃったらごめんなさい。今、1点目で1回。1問目ですよ、今ね。

○参加者 ほかにいっぱいあるんですけど、取りあえず。

○三浦保育課長 ちょっとごめんなさいね。ほかに発言される方はいらっしゃいますか。

どうぞ。すみません。女性の方。今、マイクをお持ちしますので、お待ちください。

○参加者 公立保育園を利用していた保護者です。今日は市民向け説明会を設定していただきありがとうございました。

2回では物足りないもので、ひとまず1年延伸されたということですので、毎月でもいいので、また何度でも説明会を引き続き開催していただきたいです。

質問は、まず2点ほどあります。あと、先ほど質問されていた男性への平岡課長の回

答に少し異論があつて、先にそちらを述べさせていただきます。

公立保育園の保育士になる希望者が多いけど、小金井市にそういった感じで受験者がたくさん集まりません。そのような事象は認識しておりませんということでした。それは違うと私は思っております。

小金井市が正規職員、任期の定めのない職員を募集される時期が遅過ぎるからです。他の自治体はしっかり6月、7月に受験を行いまして、応募率が大変高い。小金井市はどうかといいますと、年明け1月、2月とかに行っています。そうすると、もう既にほかの都内の、例えば23区とか、多摩のほかの地域での試験は終わっていて、小金井市にわざわざ受かっている状態で受験をされるということは非常に考えにくいので、まず応募者数自体が他の自治体と比べて非常に少ないです。このことはしっかり認識しておいてほしいですし、今日、この場に園長先生たちいらしていますが、大変、職員数が厳しくて涙が出るほど毎日職員の配置に困った。もう時間単位で職員をこうやって組み合わせ、保育事故が起こらないように、本当に苦勞して、つらい年だったというような年があったこと、また、そのようなお話を直接、公立の先生が、平岡課長もいらっしゃる場だったと思いますが、発言されていたかなと思います。

そのような過去があるにもかかわらず、また試験の日程が遅くて人が集まらないような状況なので、集まりが悪いというだけなんで、そこはしっかりと今後、もし説明会で聞かれた場合に、理由は認知しておりませんではなく、例えばこの一市民の意見では信憑性がないというのであれば、しっかり調べていただき、根拠を持って回答していただきたいです。

また、試験に応募してくださった方は、必ず全員合格されているわけではありませんとその際、説明をされていましたが、しっかり選ぶのであれば、集まってくれる応募者数が多い時期に試験を実施しない理由はないと思うんですね。それは本当におかしいことだと思うので、今後は説明会において絶対にそのような回答や説明をなさらないでいただきたいと思います。このことについても、どう対応していただけるか、最後でいいので教えていただきたいです。

すみません。長くなりました。質問に入ります。

質問、1点目です。けやきと小金井保育園は残るといってお話をされていますが、こちら未来永劫、変更されることはないということでしょうか。イエスかノーかで、まずお答えいただいて、その回答の根拠もご説明していただきたいです。

また、質問二つ目です。民営化対象園を変えたり、直営は残しますと言っていたけれど、結局、全て民営化しますに変えた事例は、小金井市の中でありますよね。こちらも、まずイエスカノーかでお答えいただきたいです。例えば、学童、給食、保育園を事例に、過去に方針変更したものを全て教えていただきたいと思います。例えば、直近で言えば、給食、直営校を残しますとおっしゃっていましたが、結局、それもやめますに今年なりました。今、三小や小金井第一小学校の保護者に向けて説明会なども実施されましたよね。なので、変わらない、民営化対象自体が、園が変わったり、残すと言っていたものが結局、残らないと変更されたことはあるかどうかをイエスカノーかでお答えいただきたいです。

質問2問は、取りあえず以上です。

○大澤子ども家庭部長 すみません。私のほうから採用の関係につきましてお話をさせていただきたいと思います。

お話にあるとおり保育士の試験、通常行われる、例えば7月とか8月に実施はしていない状況があります。それは、本市におきまして保育士さん、定年退職がまだなかなかいないというところがございます。ですので、必然的に普通退職という形が出てこないという状況でございます。ですので、どうしても、その退職の申し出を出されてからという状況になっておりますので、近年でいきますと年明けというのでしょうか。年が変わったというところでの状況で採用試験というような形を行っております。

なかなか保育士が見つからない状況というところに関しては、いわゆる育休さんの代替の職員さん、そういったところの職員さんがなかなか見つからない状況であったりとか、あと、朝夕のパートさんというところ、そういうところも含めて、なかなか見つからないというところで記載をさせていただいているというふうな形になります。

それとすみません。飛びまして、学童の関係がちょっと出ましたので、ちょっと私のほうから先に言わせていただきます。

学童保育所につきましては、今、九つの小学校のところにございまして、現在、五つが委託、四つが直営というところになっております。ただ、計画の状況ではございますけれども、六つを委託して、三つを直営にしていくというところが現在の考え方がございますので、まず冒頭、私のほうからその旨のお話をさせていただきます。

○平岡保育政策担当課長 すみません。じゃあ、小金井のほうで委託、民営化するという方針とか、対

象施設の数であるとか、そういうのが途中で言った後、変わったかというお話だと思うんですけども、担当していない部分もあるので、細かいことはお伝えできないと思いますが、そういう事例は複数はあるというふうに認識をしておりますし、今回、この案件についても、手法については何回かご説明していく中で、年数を重ねるごとに変わっていったというような事実でございますので、そういうことはあったということになるかなというふうに思います。

○大熊教育長　その一つとして、給食の民間委託があると思います。これを説明するととても長くなってしまうんですが、確かに4校直営をするという形でお約束させていただいたものを民間委託のほうに移行をしました。その理由は、子どもたちにとっての本当の幸せはどういうことかということ考えたことです。

一つは、その4校がほかの民間委託校を指導するというのを一つの目標にしていたんですが、本当に申し訳ないという気持ちでいっぱいなんですけど、いわゆる公設、私どもがやっていた直営の職員が民間のほうに指導するというのを計画はしていたんですが、給食をつくっている最中に他の学校に行って指導するというのが非常に難しかったと。そういうことがあって、その問題を実現することができませんでした。

しかし、民間の給食業者も子どもたちのニーズをしっかりかなえて、おいしい、温かい、安全な給食を提供しているということをアンケート等で、それから、試食会等で確認することができたので、子どもたちにとってしっかりと、安全な、安心で、おいしい給食を提供できるということが担保されましたので、そういう形にさせていただいたところなんです。ご理解いただければと思います。

○西岡市長　続きましては、けやき保育園、小金井保育園は未来永劫残すのですか。イエス、ノーでお答えくださいということでした。

未来永劫という言葉の定義が非常に難しいんですけども、少なくとも私は、この方針案を策定するに当たって、けやき保育園と小金井保育園を廃園するという事は一切考えておりません。継続をしていくということです。

しかし、それがその未来永劫という言葉、100年先、200年先、何という表現になるのか、これは本当に難しいところですが、私の中には小金井とけやきを廃園するという考えは一切持ってございません。

以上です。

○参加者　ご返答ありがとうございます。すみません、いただいた回答への何点か意見を言っ

て一旦、私の質問を終わりたいと思います。

西岡市長、廃園、けやきと小金井は考えておりませんということでしたが、西岡市長の任期の最中に、最短だと2か月で方針の案が変わってしまったというのを経験しています。民間委託します。民間移譲に変えます。そして、最終的に廃園にしますと変わってしまったので、市長になられて6年ぐらい、そこらかと思いますが、変わるんだろうなど私は思っています。はい。2か月で方針が変わってしまうぐらいだったので、変わるのかなと思っております。

次に、大熊教育長に申し訳ありません。ちょっとお話をしたいんですけども、指導する時間がないということで、まあ味は大丈夫ということで全部直営はなくして民間にしますということですけども、例えば保育園でも給食だけが民営化されている事例があります。職員、保育士さんたちは公立の職員。そうなるとうなるかという、時間契約なので、何時から何時の間に給食をしっかりと食べ終わらなければいけない。お散歩から戻る時間が少しでも遅れてしまうとその契約の時間を越えてしまうので、子どもたちがせかすようにご飯を食べさせられてしまう日もある。そういう事例も起こっています。なので、味がという話以外の部分にもしっかりと目を向けていただきたいですし、給食でできなかった民間への指導みたいなことが保育の分野では難しいと思っています。

すみません。大澤部長がご回答してくださった学童の件ですけども、そもそも学童の民営化という話が一番最初に出たときは、私の知っている限りですと東小学校についている、たまむし学童が最初に名前が挙がっていたと思いますが、結局、たまむしは民営化されずに今、直営で残っていたりしますよね。なので、最初に挙がった園名が園とか最初の学童が変わるということは起こっていると思うので、過去にもあったことなので、今後も起こるかなというふうに思っています。

一旦、自分の意見はここまでです。ありがとうございます。

○三浦保育課長 よろしいですか。すみません。ありがとうございます。

後ろのほうのほうでどなたか手を挙げて。じゃあ、すみません。お願いします。

○参加者 今日はありがとうございます。

二、三年前にこの問題について市民説明会をしてくださいという陳情を市議会のほうに出した●●●といます。それを覚えていただいたのかどうか、この説明会が開催されたのはよかったなと思っているんですが、まず1点、確認したいことがあります。

9月の市議会のほうで、くりのみ保育園歴代会長会さんのほうから出された陳情、保

護者などの理解を得ないままの廃園の準備行為はしないでくださいというような、ごめんなさい、間違えていたら。というような陳情が全会一致で採択されましたね。その準備行為というものに、この説明会は当たっているのではないかと私は非常に危惧するのですが、そこはいかがなのでしょうか。

もし、廃園に向けての準備行為なのだとしたら、それは、市議会の全員一致の意向を、全く一顧だにしていないという問題になると思います。

逆に、これは廃園の準備行為ではないのだよということであれば、それはそれで、市民としても、またこれからのことを考えていく姿勢が変わってくるかなというのがあるので、そこは、非常に私は気になっているところですので、明確にお答えいただきたいと思います。

あと、人材確保のことは、先ほどおっしゃった方と同じことを私も言いたかったんですけども、それは割愛します。

2点目なんですが、すこやか保育ビジョンのことを何度も何度もおっしゃっています。それで、これから、すこやかに書いてある巡回指導チームをやっていくから、小金井の保育の質が向上するんだよということを議会などで答弁されていたような記憶があるんですが、巡回指導チームについては、策定委員会の最終回のときに私立保育園の園長会の代表の方がおっしゃったのを、私の勘違いかもしれませんが、巡回指導よりも、問題を抱えている子どもの、臨床心理士とかそういう方たちの、そういうもののほうが必要なんだと、そちらを先行してやってくれと、巡回相談かな、ごめんなさい。小規模とか、家庭的保育室は分からないけれども、少なくとも、私立の保育園はきちんとその園その園で理念に沿って保育をしているし、歴史もあるし、公立の関係者からの指導よりも巡回指導のほうをしてくれという、強い意見があったように記憶しています。

そういうふうに、現場から本当に望まれていないことを実施して、それで本当に小金井の保育の質がよくなるのか。この巡回指導チームというのは、世田谷の保育ビジョンのほうに書かれていますね。あと、武蔵野もやっているかな。それから、ごめんなさい、あと、今、問題になっています段階的縮小で廃園にしていくという方式は、東久留米が実施している方式です。要するに、どこかほかの自治体が行っていることを、これはよさそうだから小金井でもやってみようという形で、小金井の実情を考えないで、そういうほかの自治体のやっていることをそのまま持ってきて、これでいっちゃおうという、その安易な考え方で進めているのではないかという危惧が非常にあります。

東久留米の廃園につきましては、私も以前から東久留米の方と親交がありますので、本当に、保護者も、保育者も、地域の人たちも、それはやめてくれと、今も東久留米の駅の近くへ行くと、しんかわ保育園なくさないでというポスターが家々に貼ってありますけれども、それぐらい住民とか関係者からは、反対されている方式でした。でも、行政のほうでは、これは別に失敗例ではないというふうに東久留米のほうが言っているので、あくまでも失敗ではないということで持ってきたんだと思いますけれども。

8月に私どもが緊急学習会をしたときに、東久留米の元保育士の方をお呼びして、実情をお聞きしました。本当に涙が出そうな子どもたちの状況が聞けました。多分、ご案内いたしましたので、保育課の方もウェブでそれをご覧になっていただけたのではないかと私は思っていますが、そういう子どもたちの涙の下に小金井の保育を進めていくとか、その市の姿勢ですね、本当に情けないと思います。ごめんなさい、何かごちゃごちゃしてきちゃった。

保護者の意見質問シートのほうにも、子どもたちに一体どういうふうに説明するんですかというのもありましたね。それについて、市の回答がありましたけれども、実際に子どもたちに市長が説明して、子どもたちを納得させてみてください。保護者とか市民でも納得できないんですけれども、子どもたちに、小金井市はお金がないから、くりのみ保育園を潰すよというのを、子どもたちに納得するように説明してください。それが子どもの権利条例のある小金井市のすべきことだと思います。

以上、よろしく申し上げます。

○平岡保育政策担当課長 すみません。ちょっと事務的なお答えがいい部分もあるかなと思っていただいて、先にお答えをさせていただきます。

まず陳情のお話です。頂いた陳情は、利用者等と十分な協議・理解を得ないまま、くりのみ保育園、さくら保育園の0歳児募集をしないなど、利用者に具体的な影響のある廃園に向けた準備行為を実施することは早急にやめてくださいというのが陳情要旨だったかなというふうに思っております。

この議会の審議のときに私のほうでもご答弁申し上げたことがあったかなと思うんですが、市のほうで何かやること、今回の説明会以前に、この方針案というものをつくってお示ししているということ自体は、準備に当たるといふふうに思っています。やはり問題になるのは、実行行為になるかどうかというところが大きいかなと思っておりまして、そういう意味では、これも準備になるかなと思います。

ただ、その準備自体が最後まで帰結するかどうかというのは、私たちとしてはそこに向かっていっているつもりですけれども、最終的にどうなるのかというのは、それはまた別かなと思っていますけれども、今、この行っているものが準備かどうかということになりますと、これがこのまま進んで最後までいけば、準備行為ということになるかなというふうに思っています。

ただ、保護者の方に対してご説明をさせていただく必要があるというふうに思っていますので、必要な行為だというふうに考えております。

それから、すこやかさのほうで、おっしゃっているとおり、保育士さんたちが巡回するよりも、特別な配慮が必要なお子さんへの支援に係る巡回を充実してほしいという声があったのは事実でございます。

これは、この保育の部分のお話が出るずっと前から課題として挙がっていたもので、現在は民間さんについては、きらりのほうで対応しているものかなというふうに思っておりますので、それはそれとして、これまでどおりの、どおりというか、これまでもあった課題というものでございますので、こちらはこちらとして充実していかなければいけないというふうに認識をしておりますが、ちょっと、保育のほうで担当しているものではございませんので、課題としては同じように認識しているというところだけは、お伝えをさせていただきます。

私からは以上です。

○西岡市長 園児の皆さんに市長が直接話して、しっかり納得させることができるのか、とのご質問、ご意見だと思います。

少なくとも、今、通われている保育園児、そして来年は0歳児の募集も行いますので、まずは、卒園までは必ずこの保育園で遊べること、いられること、それはしっかりお伝えすべきだと思います。しかし、0歳から5歳までの子どもたちの方々に、どのように、今、置かれている状況を伝えるのか、なかなか難しいと思いますが、少なくとも卒園するまでは、この保育園、そして、変わらぬ保育体制でしっかり臨ませていただきたいということはお伝えしたいというふうに思っていますし、安心して保育園に通ってほしいと、このことは伝えていきたいと思っております。

また、市がやるべきは、今、保育園が置かれているいろいろな現状について、細かくご説明したりすることは難しいんですが、まず安心をしてもらおうということ。それから、今般の大きな目的は、やはり、財政効果というのものも一つあるわけです。これからも子

どもたちのために、この財政をしっかりと充てていきたいと思っていますから、未来のある子どもたちのために、引き続き小金井市は、子育て・子育で・教育環境の充実にさらに頑張りたいと、そのことはしっかりお伝えしたいと思っております。

以上です。

○三浦保育課長　じゃあ、一旦よろしいですか。

一番後ろの方。

○参加者　市民の●●●と申します。

今日の説明会、ちょっと納得できないことがいっぱいでした。それは前置きとして、ちょっと質問させていただきたいと思います。すごく単純なことです。こういう廃園の計画を持っていますよね。私たちが納得しているかどうかは別として。こういう状況の中で、これから先も、いわゆる、株式会社立の保育園、これは市内で継続して、株式会社立の認可と言ったら変だけれども、設置を進めていくんでしょうか、こういう状況の中で。この状況の中で、来年の3月、また何園かできるという話をさっきなされましたけれども、そのことも少しおかしいなというふうに思っておりますけれども、今後どんなふうに考えられるのか、教えてください。

○西岡市長　ご質問いただきまして、ありがとうございました。

来年は4園の新規の認可保育園を開設いたします。なお、4園のうち2園については、今年の4月に0歳児の空き状況が51名、これは4月1日時点です。その後、0歳児の空き状況はだんだん減少はしていきまされたけれども、そういった状況に鑑みまして、来年は4園のうち2園については0歳児を募集せず、1歳児からということで、4園、2園は0歳児から、2園は1歳児からの募集ということで、約267名の定員となります。

待機児解消策の新規の認可保育園の開設については、まずはこの4園をもって今後の動向を見たいと思っております。現時点では、令和5年4月に向けた、つまりこの4園、その次の1年後ですね、令和5年の4月に向けての開設については、今は一旦状況を見ているという状況でありますから、これから、株式会社立の保育園をまだ増やすのですかというご質問に対しては、現状では保留、現状では計画は持っていないことに、ご答弁としてはなるかと思えます。

○参加者　そのことは分かりました。15年前ですか、ビルの中に株式会社立が、武蔵小金井の駅前にできたときに、とても危惧していた者の一人なんですけれども、それが何か現実のものになってしまったということが、とても残念です。

それともう一つ、安心・安全、それから子育て日本一ということを西岡市長はずっと言っていたらしゃいます、就任以来。言っていたらしゃるんですけども、本当に安心・安全な保育園、子育て、どんなことなのかという具体的なことを、再度、やっぱり、考えて、いろんなことを、政策をやっているってほしいなというふうに思っています。

老朽化で、安心・安全という、老朽化の中で子どもが生活することが安心・安全にならない、もちろんそうですけれども、もっと広い意味での、子どもたちが育つための安心・安全な環境というのは何なんだろうかというのを、今後やっぱり考えていってほしいなというのを、一市民としては思います。よろしくをお願いします。

○西岡市長 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

○三浦保育課長 男性、前の方。すみません。マイクを。

○参加者 ●●●と申します。大学で保育の研究をしています。

2点、私のほうからこの案についての意見と、1点、ちょっと質問をさせていただきたいんですけども。

この5ページから6ページ目にある「新たな見直し方針策定に当たって」というところ、これ民間委託のところから、廃園に方針転換したという理由づけになっているんだと思うんですね。その中でも、文章をちょっと読むと、「安全安心な保育の実施は、全ての保育施設で大前提となる共通項であり、日々、子どもたちの気持ちに寄り添い、保育を行っている保育士が一斉に変わるという大きな環境の変化を避ける工夫を考慮しながら、新たな方針を決定することが極めて重要である。このため、従来の民営化方針を改め、運営者や保育士が一斉に変わることなく、定員数を段階的に縮小することで、当該保育園に通う児童が卒園するまで在園することができる廃園方式に転換する。」というふうに書かれているわけですけども、これ在園児は、先生が変わるとか、運営者が変わるということがかわいそうだから、卒園までは、でも、友達はどんどん減るけど、廃園しますねと言っているようなもので、これは保育士が変わることと、それと、登園します仲間が減るという問題、何かこう、そこの大問題がすり替えられているというか、保育者が変わるということも大きな問題ではあるけれども、何か、あたかも子どものためを思ってこういう方針を策定しているというところに関しては、ちょっとこれは子どもに対してちょっと不誠実なんじゃないのかなというところで、表記をちょっと、何らか削除を私は求めたいかなというふうにも思います。

もう1点、廃園後の、これは9ページの6の保育サービスの拡充、この間、いろいろ

とご説明もありましたけれども。公立保育園におけるサービスの拡充のところのイとウ、「アレルギーのある児童の積極的受入れ及び安全対策の充実」、段階的实施とは書かれてはいるんですけれども、これは当たり前なんじゃないのかと。「ウ 入園している要保護児童及び入園児童が要支援家庭の場合の同家庭への支援」、それで、今度10ページ、「子ども家庭支援センター等関係機関と連携し、要保護児童及び要支援家庭に対し、必要かつ適切な支援を行う。」、当たり前だなという。今すぐやるべきですよ。

これはだから、何か、廃園を理由にこれを確立しますという理由にはならないというか、そもそもこれができないんだったら、これ大丈夫というところでもあるので。ここは、こんなことを書かないほうがいいんじゃないのというところを、私は見えていました。これは基本的なことだと思いますので、どう方針転換されようと、当然のこととして実施していただきたいということをお伝えしたいです。

1点、これは質問にもなるんですけれども、7ページの「段階的縮小期間の対応」のところ、「ウ 定員を0人としていない月齢（クラス）が定員まで空きが生じている場合は、待機児童数及び市内保育定員の空き状況等を勘案しながら、募集の可否及び募集人数を決定する。」、この文章的な意味が分かりづらかったということと、この定員まで空きが生じないというのは、例えば一次締切りみたいな、定員に満たないという問題と、途中入所をして空きはあるんだけど、結局、今このご時世ですから、いろんな家庭環境の中で、やっぱり保育園に行って、子どもを預けて就労したいという方が当然いるはずで、これを、言ったら、どの時期に定員の空きというところをカウントするのかというのは、どこまで見いだせるのか分からないですが、これ運用の仕方によっては幾らでもできることだなというところがありますので、ここは確認しておくべきところかなというふうに思います。

二つ意見で、一つは質問ということでお願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございました。

大学のほうで保育を研究されていらっしゃる先生ということでございました。大変貴重な、専門的な見地からご意見をいただいて、ありがとうございました。

まず、今回の段階的縮小から廃園に向かっていくに当たって、子どもたちにいろんな変化があるのに、保育士は変わらないよということで議論をすり替えているのではないかというようなご指摘でした。小金井市では、方針案に併せて、ホームページでは公表しているのですが、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告というのもの、

一緒に併せて発表してございまして、本日資料として、すみません、お配りをできておりません。大変申し訳ございません。本来であればお配りをすべきであったということで反省をしております。

この中には、手法別比較ということで、子どもの環境変化、コスト、実施までに要する期間ということで、約八つの観点から比較をさせていただきました。その中で、「今の友だち」というところがありまして、民間委託など他の方策では、友達は変わらない。廃園の場合は友達が減少してしまうということは、市としては認識しております。

またこの間、6回の保護者説明会を開催いたしました。その中でも、保護者の方々から非常に多かった意見の一つが、特に0歳児の方々は、6年後、5歳児クラスだけになってしまいますので、今まであった、いわゆる集団保育、異年齢保育、0歳から5歳まで、特に3歳、4歳、5歳、これぐらいの子たちは同じ教室の中で過ごすことも多いですし、その中でいろいろなことを学ぶ、集団保育の中で、友達同士あるいは一つ上の園児や一つ下の園児や、そういった方々と関わり合いながら、いろんなことを学んでいます。それが、その機能が、役割が果たせなくなるではないか、それに対する不安が非常にあるというご指摘は、たくさんいただきました。

同じことができないので、残念ながら。その中で、どのような方策で異年齢保育につながる、直接、同じことはできないながらも、どのような形で補完ができるかということとは、大きな課題だと認識しております。そういった意味で、幼保小の連携、今まで小金井市は十分進んでいませんでしたので、小学校に進んでいる保育園の卒園生の方と児童と触れ合う機会、園児が小学校に行ったり、卒園生が園に来ていただいたり、そういった補完できるようなことを、公立保育園の保育士、保護者、それから、学校、教育委員会、こういった方々と連携しながら、よりよい対応をするとともに、幼保小の連携にもつなげていきたいということで、大熊教育長にも、その検討を既に考えていただきたいということでお願いをさせていただいています。

校長会の皆様方のご理解もいただかなければいけないところですが、私としては、この幼保小の連携につながっていく、切れ目のない子育て支援、保育園にとっても、小学校にとっても、子どもたちがスムーズに進級できるような、そういう流れにつながっていく方策にもしていきたいと思っております、具体的にはこれからの詳細は検討にはなりますが、教育委員会のほうも、この件についてはぜひ協力したいというふうに言っているということで、異年齢保育、同じことはできないことは、それは率直にそ

のとおりだと思いますけれども、補完できる方策というものをしっかり構築させていた  
だきたいと考えているところでございます。

○平岡保育政策担当課長 最後のご質問のところでございます。資料の8ページをご覧くださいませ  
しょうか。すみません。中ほどに表があるかと思えますけれども、この方針案どおりに  
いったとしてのお話となりますけれども、令和5年4月入所におきまして、この年度に  
おいては1歳からの園という形になりますので、1歳から5歳までについては原則とし  
て定員まで募集をさせていただくという考え方を、全体的な書き方をさせていただいて  
おりましたので、ちょっと分かりづらかったところがあったのかなというふうに思っ  
ております。

また、基準をどこに置いているかというところでございますが、やはり、小金井の場  
合、特にそうなんですけれども、4月をターゲットにして入園手続をされる方がとて  
多うございますので、基本的には4月を起点としております。ただ、この間、民間保育  
園もかなり整備してきた関係で、年齢によっては、年度途中でも空きが出ている場合  
がございます。詳しくは、多分、ご存じだと思うので申し上げませんが、ですので、  
そういった方々が、空いている場合は5月6月と途中で入園されていらっしゃる場合も  
当然でございますし、転園などで空きが出れば、年度途中の募集も当然行っております  
ので。ただ、起点はどこかというお話ですと、やはり4月の定員というのが、小金井とし  
ては起点とさせていただいているというところはございます。

以上です。

○三浦保育課長 ちょっと進行が下手で申し訳ありません。ちょっと予定時間が過ぎておりますが、少  
しの間、延長させていただきますので、引き続き、今日ご発言を予定されている方は挙  
手のほうをお願いいたします。

2巡目の方ちょっとごめんなさい。1巡の方限定ということで。お二方。

じゃあ、すみません。

○参加者 質問は、公立園の役割って何ですかというのがどこにも書かれていないというのが  
ありまして、市の役割として、保育の質の維持・向上というのは書かれているんですけ  
ど、じゃあ具体的に何をやるのかというと、何だか分からない。そこが分からないと、  
じゃあ公立保育園って要るんですか、要らないんですかという議論すら始められないん  
じゃないかと思うんですけど。結局、役割は何ですかというのが質問です。

もう一つは、今、定まっていなかったらどこかで議論すべきじゃないかと思うんですけ

ど、結局、どこでも議論しないですよ、今。すこやかで議論しないですし、運営協議会でもしないし、じゃあどこでするんですかというのが、私の質問です。

その質問に至る経緯として、運営協議会で過去に出されているんですね。公立保育園の役割というのはこういうものですよという。それがまさに、6番の保育サービスの拡充というところで、先ほど男性の方から、アレルギーの対応というのは当たり前にするべきだよとおっしゃられていたんですけど、それがまさに公立園の役割として過去に書かれていたのに、それが今や、市の役割の中に一切なくて、もう市はその役割を捨てたんですかと、私はこれを見て思ってしまって。

そうじゃないんだとしたら、公立園の役割ってなんですかというのをきちんと決めて、じゃあそれをやるためには、何園必要なんですという議論がされないと、この見直し方針、いいですか悪いですかと言われても、何とも言えないと思うんですよ。そういう意味で、公立の保育園の役割って何ですか、今ないんだとしたら、どこで議論するんですかというところをお答えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○平岡保育政策担当課長 すみません、この間も同じようなご質問をいただいています。今の市の考え方ということでお伝えをさせていただきます。

今の市の考え方としましては、市と施設と、それぞれ役割を別に定めるのではなくて、施設も含めて全体で市としてやっていくという考え方で、市の役割というところでどめらせていただいているというのが考え方です。おっしゃっていただいているとおり過去には、確かに、公立保育園運営協議会の中で、公立保育園の役割とはこういうものではないかというふうに考える資料が出ていたのは事実でございますが、施設自体に個別に役割を持たせるということではなくて、セクションとしては保育課になりますけれども、保育課と園とが連携しながら、一緒になって役割を果たしていくというような形で進めていきたいというふうに、今、市のほうでは考えておりますので、公立の単独としての役割というのは、市のほうで今の時点で決めていくという考え方は持ち合わせておりません。

以上です。

○参加者 ありがとうございます。今の話で、施設とひもつけないというのは、公立保育園とをひもつけないという意味ですか。市の役割を果たすために公立保育園があるんじゃないかと思うんですけど。最初の男性の方がおっしゃられたように、株式の保育園っていつか撤退してしまうリスクがあって、そういうところがセーフティーネットみたいな、特

別な配慮が必要な子どもの受入れをすとかということをしていると、そこが急になくなったときに困るわけですね。それこそ、公立保育園がやるどころの役割であって。

だとしたら、やっぱり市の役割イコール公立保育園の役割で、そこをひもづけないと言われてもよく分からなくて、じゃあ民間に全部お願いするんですか。公立ができないところは全部民間にお願いして、じゃあ民間が受けてくれるんですかというところなんですけど。

実際に今も、特別な配慮が必要なお子さんって、公立のほうが受け入れている枠は多いですし、一時保育とかも多いわけですね。その辺のセーフティーネット的な役割を民間にお願いしちゃうのはどうかとか、そのひもづけのところがよく分からなかったです。

○平岡保育政策担当課長 すみません。いろいろとご意見というか、ご質問をいただいたかなというふうに思っております。

公立と民間、どちらも特別な配慮が必要なお子さんを受けているという実態はあります。受け方、やり方が違う状況もあるので、なかなか厳密に何人というところまではきちっと把握するのは難しいところはあるところはあるんですけども、それぞれが受けているというところは、確かにあるかなというふうに思っています。

公立保育園自体に役割を持たせるというのが、園でこういうことをやりますというような形で分けるのではなくて、今回、保育課に、仮称ですけども、保育支援チームを置いて、連携をしながら一緒になってやっていきたいと思いますという考え方を持っていますので、園単独で何かをというような形に切り分けて、位置づけていくという考え方は持っていないというようなことを、こちらとしては申し上げているというところがございます。

そういった中で、おっしゃるとおり、それぞれの園で役割を持たせている自治体さんがあるというのにも存じ上げているところではあるんですが、小金井としては、課と園と両方でやっていくというふうに考えています。

撤退リスクとセーフティーネットのお話もいただいたところではあるんですけども、やはり、公立保育園のほうで何かがあったときに受け止めていくという状況は、現状、公立だけではなかなか難しい状況はあるかなというふうに思っていますので、そこは民間さんとも協力をしていただきながらという部分も出てくるというふうに思っておりますし、事前にそれだけの余力を持った形の運営というの、なかなか難しいかなという

ふうには思っております。

以上です。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 すみません。そちらの3番目の男性の方、すみません。手を挙げていらっしゃいましたよね。

○参加者 市長に1点質問です。過去に小金井の公立保育園に子どもが通っていました親でございます。

今も折に触れて思い出しますが、すばらしい保育でした。それは、50年以上も小金井の公立保育園の保育実践の歴史の積み重ねの上に、ある意味、奇跡的にあるものだと私は感じています。また、それが小金井市民として誇るべき財産であるとも思っています。そういった場が廃園という形でなくなろうとしていることを、私は残念に思っています。

今日いただいた資料には、10年で27億円の財政効果があるというふうに記載がありました。しかし、この比較の話に含まれていないことがあって、それは、今ここにある小金井の公立保育園の保育の価値ということだと思います。つまり、この資料は、50年の小金井の公立保育園の保育実践は置き換えが可能なものであって、つまり価値がないという資料として私は読みました。

そこで、市長にお伺いしたいのは、今、ここに既にある、今ある小金井の公立保育園の保育の価値については、どのように評価していらっしゃるのでしょうか。よろしくお願ひします。

○西岡市長 ご質問いただきまして、ありがとうございました。

また、公立保育園にお預けをいただき、公立保育園に高いご評価をいただきましたこと、感謝を申し上げます。何よりも、公立保育園で一生懸命に頑張ってきた歴代保育士や給食調理員の方も含めて、全ての公立保育園の職員の方々には、本当にご尽力をいただきましたので、改めて感謝を申し上げたいと思います。

○参加者 すみません。ちょっと聞こえにくいです。

○西岡市長 これぐらいの音声で大丈夫でしょうか。すみません。

まず、公立保育園の価値ですね。こういったことなどについて、市長としてはどう認識しているのか、また公立保育園を廃園とすることで、歴史的にも非常に価値のある保育園がなくなってしまうということについては理解ができないと、こういうご意思、ご

意見と受け止めております。

まず私自身も、この公立保育園を廃園するという状況になっている、それを案として決断しなければいけないことは、本当に厳しく、つらい決断ではあります。しかし、これから先の市の財政や、あるいは保育の今、置かれている現状、それから、小金井市の子どもたちのためにさらに保育のサービスを充実させていきたい、こういったことを含めると、むしろここで生み出される財政効果、この財政効果にはない価値があるんだというご指摘ではありますが、まずは、この財政効果というものをしっかりと次なる子育て・子育て・教育環境の向上に、しっかりと充てていきたいという思いがあります。

そして、公立保育園の価値、50年間の歴史があることは十分承知をしておりますが、この中で培われてきた、脈々と保育士さんの中で受け継がれてきた歴史や伝統というものを踏まえた、経験のある保育士の方々には、巡回チームなど、小金井市全体の保育の質の向上に向けて、その力をぜひ発揮してほしいという思いもありまして、12ページにありますように、保育サービスの拡充として、一応主な6点について掲載をさせていただいたところであります。そのようにご理解を賜りたいと思います。

○三浦保育課長 ごめんなさい。すみません。後ろの女性の方。

○参加者 私も、公立保育園に保育士として、40年保育士をしていました。本当に悲しいです。こんなに頑張ってきた公立保育園、たった5園しかない公立保育園が、何でここで3園もなくなるのか。それもやっぱり、財政の問題について、今までずっといろんな方がおっしゃってきたのでね、その辺は省きますけども、やはり私は、今まで保育士をしてきた、仕事としてやってきた中で、子どもたちにとってやっぱり廃園になる、何か段階的にやるからいいんじゃないかという、そういう選択って、じゃあ今の子どもたちは犠牲になれば、次の世代につなぐからいいということなんじゃないかな。どこかでそういうことが来るから、今はしようがない我慢してくれということなのか。もしそうなら、財政ということを考えると、そのことが1番になっていて、子どもたちは置かれているんじゃないかなというのをすごく感じます。

市長の安全・安心の子育てって、どういうことなのか。要するに、じゃあ古いところにいつまでも置いておくのが危ないから、安心な保育、そういうところは、なくせばいいということなのかなって。やっぱり今の子どもたちにとって、小金井の子どもたちにとって、安心・安全というとなんのかというのが、市長の認識が全然違うなというのを本当に感じます。

それで、先ほど最初の方もおっしゃっていましたが、あっという間に、保育園、本当にできたんですね。私たちが最初のうちは、どこに認可保育園、どこに無認可の保育園があるんだとかというのは把握してはいたんですけども、もうここ二、三年でいっぱい増えちゃって、把握し切れないんですよ。そのぐらい保育園が増えたんですね。ということは、要するに、それだけ子どもたちが保育園に一応入って、措置される子どもたちが増えたということなんだと思うんですけども、ただ、実際に措置された子どもたちがどんな保育をされているのかというのを、市はちゃんと把握しているのかというのを、すごく危惧します。実際に、そういうところで働いている人も知っていますが、どんなに厳しい労働条件の中で、どんな子どもたちが保育されているのかというのを、分かっているのかなって。ただただ保育園が増えて、子どもが措置されればいいのかというふうに思っているのかなという辺りは、すごく心配です。

それで、そこで働いている保育士たちがどんな労働条件で働いているのか、そうじゃなければ、こんなに民間の保育園で、どんどんどんどん毎年、保育士が5人も6人もいなくなって、毎年、新しい担任の先生になるんだというのを聞くんですけども、やっぱりきちんとした労働条件の中で働いていけば、定着するんだと思うんです。そういう意味でも、公立保育園で、私たちがそうでしたけども、それなりに年齢を重ねるけれど、それなりに安心した子育て、保育ができたという自信は本当にあります。そういう中で蓄積されてきた保育の内容を、ここで活用すると言っていますが、やっぱりそれだけでは、せっかく築いてきた50年を、本当、どう思っているのかなと本当に残念です。

実際にね、市長、まちを歩いていて分かりますように、日中、どれだけ子どもたちが、あっちからもこっちからも公園を求めて歩いて散歩しているんですよ。本当にそれがどれだけ安全なのか。あんなに小さい子どもたちを遠くの公園まで連れて行かないでいい保育士って、本当に大変なんですね。あんなに重いワゴンを押していくって。やっぱりその辺は、自分のところに庭があれば、雨がやんだからちょっと出ようかとかということができないということなんですよ。それだけやっぱり、保育士は大変な思いをしているんですね。

だから、ただただ保育園を増やせば、子どもたちが、未措置児がいなくなればいいのかという問題では決してない。やっぱり保育の質、これは絶対、小金井の子どもたちにとっては欠かせないというよりも、当然の権利だと思うんですね。何かあったときに、公立の保育園が拠点になって、安全・安心な保育ができるって、子どもたちが預けることが

できるというのは、やっぱりそのためにも公立保育園って拠点になる、公立保育園をなくしちゃいけないんだと思うんですよ。やっぱり、ここで突然、廃園が出てきたというのは、もう本当に悲しく、残念です。子育て、安心・安全なという、何が安全なのかという。日本一って何が日本一なんですか。本当にやっぱり40年保育園で働いてきましたけども、残念でなりません。

何か子どもたちがかわいそうだなって。子どもたちが全然いなくなって、自分たちだけ、減ったら子どもたちが空いたら、その分また募集しますって書いてありますけども、5歳児の子どもたちが4歳児の子どもたちが、周りの子どもたちがいなくなるんですよ。どんな思いで保育するほうも、されるほうも、それは本当に悲しいですね。

だから、確かに民間委託するのも、全部変わるのもかわいそうですけども、だから大丈夫、この書き方って何なのって。そんなことないんです。そこは本当に分かっていたきたいというふうに切に思います。

○西岡市長 40年間にわたって公立保育園にご尽力いただきましたこと、本当にありがとうございます。

そして、大変熱い思いをお聞かせいただきました。長く、本当に長く生涯をかけて働いた場所ですから、当然のことながら、私どもが示した方針案について、いろいろな思い、複雑な思い、また、廃園すべきではない、そういうお気持ちをおっしゃられること、そこは私も十分受け止めさせていただきました。

しかしながら、何が安心・安全な保育なのかと、全くそれが伝わってこないということだと思いますが、少なくとも私はこの間、命を守ること、子どもたちが毎日過ごす保育園ですから、公立であっても民間であっても、その保育園の安全な環境、安心な環境、これは大切です。そしてまち全体も、昨今、交通事故などで、本当に痛ましいあつてはならない交通事故があちこちで発生してしまっていますから、まち全体の、これはもう子どもたちだけではありませんけれども、市民の皆様の安心・安全なまちをつくっていくということは、小金井市の未来永劫、使命だと思っております。

また、民間保育園において、たくさん保育園ができたけれども、市長は措置されればいい、つくればいいのそれだけで思っているのではないかのご意見もいただきましたけれども、そんなことは決してありません。民間保育園の皆様方も本当に頑張っていると思いますし、民間には民間の持ち味がありますから、多様な方策で保育の質の向上や、その保育園の特徴を生み出すために、一生懸命頑張っていると思います。

識しております。そして私自身も、待機児の解消のためだけに、民間の保育園が誕生すればいいと思っていないから。待機児解消は、もちろん、絶対果たさなければいけない使命ですけど、その先には、当然のことながら一体となるのは、子どもたちの最善の利益、子どもたちの安心・安全が保育園でしっかり達成され、その保育指針などに定められた保育がしっかりと行われていくというのは、これはワンセット、一体だと思っていますので、措置されればいいというような安易な考えは毛頭持っていません。

民間保育園、新規の開設に至るまでにはかなりのご苦労があります。そして、保育士を確保しなければいけないという大変なハードルもあります。そして、定着させようということで、地域の皆様方と連携をしたり、民間の方々もいろいろと努力されていますので、私は公立も民間も両輪となって、小金井の保育全体を高めていくことが、今、求められているというふうに考えております。

○三浦保育課長 時刻、ちょっと過ぎてまいりまして、9時までにはこの部屋を全部退館することになってございますので、できましたら40分ないし45分ぐらいでと思っております。

そのほか、何かご発言ある方は、そのほか発言を予定されている方はいらっしゃいますか。1巡目の方ではいらっしゃらないですか。いいですか。

じゃあ男性の方。

○参加者 すみません。時間もあれですので、意見というか、あるいは宿題という感じでお願いしたいかなとは思いますが、先ほど、平行線というところが、ちょっと申し訳ないというか、すごい残念だなというところなんですけど、僕自身はかみ合わせたいと思っていますので、その観点で言うと、財政が、財政は分かります。それはそれで一つの理由だというのは、それだったら、それで一つの理由をはっきり言っていたきたいんですけれども、そうでないというのであれば、やはり、きちっと、総合的という言葉でなくて、せめて箇条書ぐらいになるような整理というのを、次回以降、説明していただきたいなというところがあります。

もちろん財政の問題だというのであれば、その次には、どっちが、優先順位の問題ですね、財政なら優先順位の問題がありますし、ないしは財政効果の問題があるというところですね。

もしも財政問題でないというのであれば、それを具体的に、何が廃園の理由なのかということについて、しっかりと議論を深めていくことがしたいと。

もっと言ってしまうと、財政よりも大事なものがあると。やっぱり公立保育園の役割

だとか、保育の質とか保育の中身の話があることで、2点目のちょっと小金井の保育、子育て施策についてですね。廃園後どうなるかという位置づけが、もうちょっと、今日は議論ができないと思うので、ちゃんときちっとした場で、ちょっと議論というか、確認させていただきたいというふうには思っています。

そういったことをやっていく上での3点目が、手続面という観点で、その手続面に関しては、今回、僕は、対話が必要だと思いますし、別に廃園についてはどうかと思っていますけども、民間が駄目とか、株式が全て駄目とか、こういうふうには思っていないし、もし、いい民営化とか、いい廃園とかがあるのであれば、それについては議論することもあると思うんですよね。

ただ、今回の市の案というんですかね、それについて、やっぱりそういったところが見えてこない。そういったところをきちんと議論する。何で廃園になったら、巡回支援をすれば保育の質がよくなるのか。いろんな方が議論されたとおりでですね、何か廃園後に、例えばどういったようなものができるのか、これについても、僕は違う審議会で、東小金井、土地の跡地の利用みたいな形で、ここをこういうふうな形にしたいんです、みたいな答申を出したんですけども、でも、結局そういうふうな形にはならなかった。今なっていないんですよ。

ですので、言葉では抽象的に、こういうふうにします、こういうふうにできますとかいう話があるとは思いますが、やっぱりもうちょっと具体的に、本当にそうなのかというところをきちんと議論していかないと、やっぱり絵に描いた餅という形になると思いますので。

ちょっとごめんなさい。端的に何が言いたいかという、そういった手続面として、ちゃんときちんと議論をしたりとか、整理する、したりする場というのを、こういったような2時間の説明会という形でやるだけでは、やっぱり時間的に厳しいんじゃないかという疑問点はあります。ただし、それは今まで児童福祉審議会とか、保育検討協議会とか、保育計画策定委員会とかで話をやっていますが、やっぱりこの廃園問題とか、公立保育園の役割だとかというところ、今、いろいろ議論があるんですけど、今日お話しして、しっかりとした最終的な結論というのが出ていないし、今までは廃園に関して、今回の議論しかされていないというところがありますので、そういったものをちゃんと市民参加でしっかり議論していく場というのをつくっていただきたいという観点での話になります。ちょっと今日はすみません。これぐらいにします。

○西岡市長       ご意見ということで。

○参加者       はい。

○三浦保育課長   よろしいですか、ご意見。

あと、どうしてもという方がいらっしゃれば。

では、最後よろしいですか。男性の方。

○参加者       最初に伺わせていただいたんですけど、一言で言うと、多分、ない袖は振れない、その一言だと思うんですね。

一つ伺いたいのは、まず、都とどれぐらい交渉して補助金がもらえないのか。建物を建てる、5億円ってすごい建物を建てるような計画になっているんですけど、もし例えば、これぐらいで建てたら。仮に百歩譲って、鉄筋コンクリート2階建て、5億円かかるとしたとしたときに、じゃあ都に、それは教育長、どれぐらい交渉されたんですか。それがまず第1点。

それと、ずっと定性的な話ばかりで、全く説得力が。私、民間企業で40年以上勤めていましたけども、民間はもうからない仕事はしません。これだけ、ばんばんばんばんできるということは、もうかるからですよ。そんなボランティアで、これだけの設備を20も30も、ああ30は言い過ぎかな。

市長がおっしゃるように、駅前の保育園が便利なのは分かります。でも、駅前の保育園、これは家賃を払っているんです。そのお金はどこに行っちゃったんだ。行っちゃったというか、どこかに取っておかなきゃいけない。公立だったら、今の土地や建物はもう減価償却は終わっているからゼロです。建物を建てても、恐らく5億円でも47年償却したら、今、民間で家賃を払っているものよりも、ずっと少なくて済みますよ。金さえ持ってこれれば。だから、公債を発行してでも建物を建てて、それは民間が運営してもいいです。でも、民間の家賃を、民間の会社にどんな形でも家賃を、どんどんどんどん払い続けるという。市役所と同じような話ですよ、これ。おかしいと思う。入ってくる金は補助金で取ってくる。出ていくところは、民間に結局、職員の給与は減らす、払う家賃は、ばんばん民間に払うと。これ何かおかしくないかなと。出と入りのつじつまが合っていない。民間はもうからなかったらやらないし、園児が減ったらやめますよ。そこに話が戻るんですけど。

ちょっと宿題でお願いがあるのは、まず、民間の園の財務状況をきちっと市で把握してください。財務状況は、入りがどうなっているのか、補助金を幾らもらっているんで

すか。あと、その他もろもろを取っているのか。

出は、職員に幾ら払っているのか。1人当たりの園児、職員1人当たり何人見ているのか。それと、理事さんたちがいくら給料をもらっているのか。これは、民間は理事さんに給与を払わなければいけないけど、公立だったら、市長が2人必要になるわけじゃないです。もうかっているから、民間はビジネスを広げるんですよ。どれぐらいもうかっているのか。もうからないのであるなら、公立を潰して定員を全体圧縮しているとしたか、私には思えない。民間だったら、もうからないとビジネスしませんから。ですから、その辺の数をきちっと定量的に見て、市民にちゃんと公開してほしい。職員の給与、1人当たりの。それから理事の給与、総額。今、小金井で運営している株式会社。株式会社はもうかるからやるんです。

あと、この1,700人から4,000人増えた割合、ほとんど民間だと思いますけど、もう民間依存率が高過ぎて怖い。でも、そのリスクが過去10年間でどう推移してきたのかを、定量的に教えていただきたい。

あと、補助金の交渉の状況はぜひ、それも我々は知りたい。何もその辺を努力しないで、ただ民間に渡すというふうにしましたというのは、全く説得力がないです。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 すみません、ちょっと全部お答え、今すぐできるかどうかというところはありますが。

○参加者 宿題でいいです。何らかの形でお示してください。

○平岡保育政策担当課長 はい。交渉の部分だけ、今お答えできることを、まずお伝えさせていただきます。

まさに、民間の方らしいご発言だなと思っていて、当然、行政間でも交渉というものはあります。していないとは言いませんけれども。今回のこの立てつけについては、一自治体が何か交渉したから変わるというものではなくて、国から全て制度的に、もう10年以上前からこういう形でやられているものとなっています。

ですので、私たちができるのは、団体としての要望を、例えば市長会ですとか、課長会ですとか、要望を出していくという行為はできますけれども、それ以上、おっしゃっているような形での駆け引きというか、そういうところは、なかなか難しいところはあったかなとは思ってはおります。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 都議さんを通じて、都に働きかけるとかいうのはない。我々、一生懸命、票を投じて  
も意味がない、国全体でやっていることだから。

○西岡市長 何か政治的なのというか、特別なルートで小金井だけが、何か特別な補助金を、ほかの  
自治体には適用されない、何か縁故のような形のような何かものを引っ張ってくるとい  
うのは、ちょっとこれは難しいです。できません。今ある制度の中で手を挙げたり、率  
先して取りに行くことはあっても、その市だけ特別な、独自の、おっしゃっているよう  
なイメージのものを勝ち取るというのは、なかなか難しいと思います。できないと思  
います。

しかし、やれることは、国や都が、いろいろなモデル事業を率先しておりまして、民  
間保育園の方々にも、実に多様な保育サービスの向上につながるような事業に手を挙げ  
ていただいています。手挙げ方式も含めて。しかし、公立保育園の場合は、民間が適用  
できるものも適用できないものがほとんどでありますから、基本的には公立保育園の運  
営費については、国や都の補助というものは、建物についても、運営費についても、特  
別な補助というものは得られないので。それは国全体の制度が変わらない限りは、この  
根幹は変わらないというふうに思っております。

○参加者 じゃあここに書いてある補助金云々というのは、ないことが分かって書いた。何か書  
いてあるけど。ここです、ページ4の下から4行目、国及び都の補助制度がない限り建  
て替え事業を行うことはできない。だからもう、これはないと。ない限りじゃない、な  
いからできないという意味なんです。

○三浦保育課長 一旦すみません、ここで質問を終わらせていただいて。

どうぞ、ご発言。

○参加者 まず、今日の説明会のお話を聞いて、個人的に納得はできていません。次、土曜日行わ  
れるものを聞いても、また納得できないと思っていますので、市民も入れた説明会を、  
検討を、土曜日の時点で終わらせるのではなく、開催してください。要望1点目です。

次に、要望2点目です。小金井市の公立保育園の果たしていくべき役割について、市  
民を入れて議論する場をきちんと設けてください。その理由は、市のほうが最初に、果  
たしていくべき公立への役割を除いた園を民営化しますとおっしゃったと思うんですけ  
れども、一度も今現在に至るまで、果たしていくべき役割について明示してくださらな  
いですし、きちんとした議論も行われていません。このまま民営化されるのは非常に危  
険です。民営化でも廃園とおっしゃっているんですよ。

また、もしそのような場を設ける場合は、すこやか保育ビジョンで委員長を務められていただいた先生が、非常にちょっと残念と個人的に驚いたんですけども、委員の皆さんが、公立保育園の園長先生に質問された際も、先生方が発言をできないような仕切りを、何度も何度もされていました。非常にびっくりします。次にこのような場を設ける場合は、委員長は学識の方が入られると思うので、お声がけをされる際は、子どもを中心にした目線で、委員の方々がしっかり議論する場をつくれる方を連れてきていただきたいと思います。これが要望の2点目になります。

質問と言ったらあれかもしれないですけども、先ほど、西岡市長が、切れ目のない支援をしてきたい。なので大熊教育長にも来ていただいているし、考えてくださいとお願ひしていますとおっしゃっていました。また、スムーズに保育園から学校ですね、多分。進級できるようにしていきたいとおっしゃられていましたが、例えば、今の現状の小金井市内の小学校の話で言えば、第一小学校がかなり児童数が増えていますよね。職員の募集も市内の学校の中で今一番多くて、来年度に向けて4名の募集がかかっていると思っています。

何でこんなことになっているのかなと思うと、小金井市って保育の提供の枠が1個ですとしてしまっていて、保育園をどのように配置してつくっていくかみたいところが、全くノープランという状態なんです。だと私は思っています。第一小学校がどういう状況かといえ、市民の皆さんよくご存じだと思いますけれども、武蔵小金井駅から徒歩10分以内であって、この地域って本当、全然、保育園がなくて、ここ3年ぐらいですごく乱立してできたんですね。なので、今すごく保育園も増えていますし、マンションもたくさん建って、人が増えています。待機児童が一番ひどかったのが、ここ10年以内だと2014年の257名かと思うんですけども、この年、入園できなくて引っ越しされた方や、仕事を辞めて仕方なく小金井市で住み続けるみたいな方もたくさん出ました。

ちょうど今の第一小学校の4年生なんですけれども、入学当時は3クラス、25人から26人の生徒なんです。ただ、その2学年下、2年生で4クラス、来年の1年生は5クラスになるんですね。通常の教室が足りなくなって、特別教室を通常の教室に変えていますけど、それも限界に来ています。児童が増えたのに伴って、学童保育所のスペースと一緒に今、足りなくなって、今年度は、学校の部屋を間借りしての運営が始まりました。でも、そこは三所目と言われているんですけど、学校の中なので、授業で使う

際には、その「三所目です、あなたは」と割り振られた家庭の子は、自分の居場所であるはずの三所目のところに通えないんですね。一所目と二所目、別で建っている建物のほうに行かないとならない。

そういうのって、全然切れ目のない支援にはなっていないですし、具体的に切れ目のない支援って何なの。もう保育の提供区域枠、のびゆくこどもプランに書かれていますけど、1としてしまっている辺りからしても、もう切れ目のない、どういう支援をしていくべきかというプランが、全然練られていないと感じています。なので、しっかり、何か、キーワードだけではなくて、きちんとどういうことをしていくべきか、保育園が増えれば学童が増えるよねという予測が立つじゃないですか。それが全くされていないので、本当に切れ目のない支援、何度もおっしゃっていますけれども、西岡市長。教育長にお願いしましたと言えば実現するものではないので、しっかり中身を伴って、棚卸、必要なことを考えていただきたいです。

また、先ほど、私の前の男性の質問に対して、国とか都への働きかけについてご質問を受けて回答されていましたが、例えば、全国市長会に参加されている市長さんの例で言えば、誰かは厚生労働省や国に自ら足を運んだり、説明してほしいと頼まれてわざわざ行って、今、保育の現状について話したり、こういう制度はまずいから、ここだけは絶対に譲れないという交渉を、実は裏でしてくださっています。そういう市長さん、います。なので、できないんです、制度が困難ですというお話ではなくて、市長という立場であればこそできることがあるので、ぜひそのような、西岡市長も市長会に入っていらっしゃると思いますので、お話を聞いていただいて、ぜひそのような活動を、市長としてできるご活動を積極的にしていただきたいと要望します。

すみません、長くなりました。以上です。

○大熊教育長　どこまで答えられるか分かりませんが、第一小学校のことに関して言いますと、35人学級になったということも含めて、学級数が急増したという事実はございます。そのために各クラスは、しっかりと確保していくことができるというふうに考えております。

それから、切れ目のない支援ということなんですけれども、現在、教育委員会といたしましては、教育支援総合センターを設置するという形で進めております。いわゆる就学相談、進学相談、教育相談等を一元化しようというセンターです。それが完成するときには、しっかりとした、保育園から小学校に行くときの様々な相談も、そこでできる

というふうに思います。

またさらに、保育の中で、いわゆる、発達に課題のある、発達に特性のある子どもたちの支援ということで、きらりが巡回指導をするというふうに希望した保育園の数は、実は少なかったんです。なぜそんなことになっているかという、学校でも同じなんですけれども、発達に特性のある子どもたちをしっかりと見極められないという課題があります。

その点では、教育委員会と教育相談の専門家が、きらりも含めてですけれども、一体となって子どもたちを見守っていくという姿勢は必要かなというふうに考えております。そういう形で、これから教育支援総合センターの設立に向けて努力していくときに、いわゆる、学務課、庶務課、指導室、そして、自立支援課、保育課、それから、福祉等の課をまたいで、この施策を進めていきたいという形で、来年度は計画を練っているところでございます。一応ご理解いただきたいと思います。

○西岡市長 様々なご要望をいただきまして、ありがとうございました。しっかり拝聴させていただきました。

何点かだけ申し上げます。切れ目のない支援という意味では、具体的には幼保小のところ、幼稚園を卒園して小学校に行くタイミング、保育園を卒業して小学校に行くタイミング、小金井市はここが弱い。ほかの市と比べても十分な活動がまだまだできていない。杉並区などの例でいえば、小学校、近隣の民間も含めた保育園の方々と学校との連携というのはかなり頻繁に行われておりますけれども、小金井市の場合はなかなかそういった事例もできていない。そういう状況の中で、幼保小の連携が非常に重要な一つの節目だと思っています。

小学校といっても、ご指摘の学童保育があります。私の本心としては、切れ目のない子育て支援に立てば、保育園に預けていらっしゃるご家庭が、引き続き小学校に上がったときに学童保育でも子どもを預けられる。最近、小金井市の学童保育の大規模化という課題がありましたので、私としては、より今の基準よりも厳しい学童保育の基準を設けなければ、もう大規模化に対応し切れない、子どもたちの受入れが不可能になってしまうのではないかと危惧はありました。さらに、入所要件をより見直さなければいけないときがもう来ているのではないかと考えたこともありますが、私としては、全入措置というのを継続させていただいたということになります。

しかしながら、現状、大規模化を継続していくためには、学校の施設をお借りするな

いろいろな課題がありますが、市長としては、その視点に立って、保育園から学童保育への接続。

それから、学童保育の大規模化につきましては、学童保育の大規模化だけではなくて、教育委員会とも連携した、子ども家庭、放課後こども……。

○参加者　　すみません、市長。発言中なんですけれども。私がまず言いたかったのは、切れ目のない支援で、杉並の例も挙げられましたけど、今まだその段階に小金井市は、いないんじゃないかなと私は思っています。そもそもスペースが足りない、学童のスペースが足りない。自分の部屋ですよ。おかえりと言って学童の職員さんが子どもたちを迎えるってご存じですか。生活の場なんですよ。それなのに、ちょっと今日この部屋を使っているから、あっちへ行っていてとなるのは、こういう役割を果たすのかなというところなんです。

まず、なので、杉並とかの例を挙げる以前の話としまして、スペースが足りないという圧倒的な問題、それは今、ちょっと市長がおっしゃってびっくりしたんですけど、厳しい基準を設けないといけないかもしれないとおっしゃいましたけど、それは……。

○西岡市長　　そうは言っていないですよ。

○参加者　　おっしゃいましたよ。

○西岡市長　　そうは言っていないくて、そういう考え方……、そんなことは言っていないですよ。

○参加者　　学校に、その発言って、厳しい基準っていうと、床面積が足りないとか、きちんと建て替えの計画が必要とか、そういうふうに一般の市民は議事録だけ見たら思われると思いますけれども、入所の要件を厳しくするという意味で、今、厳しくしなければならないとご回答、ご発言されたのだなと発言を聞いていて思います。

○西岡市長　　違います。

○参加者　　今しきりに首を振っていらっしゃいますけど。

○西岡市長　　全く違います。

○参加者　　厳しいという意味はどういうことなんでしょうか。

○西岡市長　　そんなことは言っていないです。

大規模化を継続する、全入措置を継続するのが私の方針です。しかし、これだけたくさんのお子どもたちが、学童保育も今200超ですから、人数がですね。いろんな課題がありますが、その課題を乗り越える大規模化の道を、私は歩んでいるんですよ。しか

し、これをずっと続けていけるかどうかというのは、子どもたちが生活できる……、ちょっと最後まで聞いてください。子どもたちがちゃんと生活できる学童保育のスペースがどうしても必要になりますので、教育委員会にかなりいろいろなお願いをして、ご理解をいただいて、前原小にしても、一小にしても、三小さんのように広い校庭がなかったので、園舎を造れませんでしたので、教室をお借りしています。この道を、今もこれからも歩んでいこうと思っていますということを言いました。

しかし、人数があまりにも多くなってしまうと、物理的な限界があるので、入所に当たって人数を少し制限しなければならないという考えもきっとあるだろうとは思いますが、私はその選択はしませんでした。それは、切れ目のない子育て支援を充実したいからですということを申し上げました。

○大熊教育長 一小で学校が使うから、学童どいてくれということは初耳でした。そういうことはないというふうに僕は理解しておりますので、もしもあるのであれば、大至急改善をしたいと、そのように思います。

○三浦保育課長 申し訳ありません。ちょっと9時に近くなっておりますので、私どものほうで至急片づけさせていただきます。大変恐縮ですが、今回につきましては、以上をもちまして終了させていただきたいと思っております。

なお、本日の発言につきましては、冒頭申し上げましたとおり、個人名等プライバシーに配慮して、ホームページのほうで公開をさせていただきますので、ご案内させていただきます。

お時間いただきまして、誠にありがとうございました。本日は大変申し訳ございませんが、以上で終了させていただきます。

閉 会